



- 第1章 日本近現代都市計画史の時期区分と全体像
- 第2章 欧米都市構築技術による封建都市の改造
- 第3章 市区改正の時代
- 第4章 都市計画制度の確立とその内容
- 第5章 関東大震災と復興都市計画
- 第6章 戦時下、都市計画の進歩と中断
- 第7章 戦後復興期の都市計画
- 第8章 高度経済成長下の都市開発と計画
- 第9章 新基本法体系と現代都市計画
- 第10章 反計画政策からバブル経済の崩壊へ
- 第11章 21世紀の都市農村計画を展望する

『日本近現代都市計画の展開 (2004)』

※『日本近代都市計画の百年』は1987年。



<http://www5a.biglobe.ne.jp/~tosi-kyu/events2007/1110.htm>

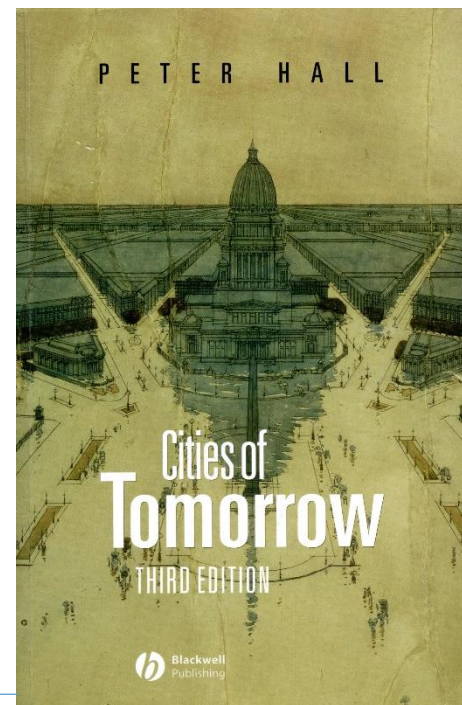
石田頼房 (1932.2- 2015.11)

- 1 Cities of Imagination
- 2 The City of Dreadful Night
- 3 The City of By-Pass Variegated
- 4 The City in Region
- 5 The City of Monuments
- 6 The City of Towers
- 7 The City of Sweet Equity
- 8 The City on the Highway
- 9 The City of Theory
- 10 The City of Enterprise
- 11 The City of the Tarnished Belle Europe
- 12 The City of the Permanent Underclass



<http://sustaingov.blogspot.jp/2014/08/sir-peter-hall-1932-2014.html>

Peter Hall (1932.3- 2014.7)



『Cities of Tomorrow Third Edition (2002)』

※初版は1988年。

# 1 高山英華の都市計画論と石田頼房の都市計画論



高山英華 (1910.4 - 1999.7)

「都市計画の方法について」 (『都市計画』、創刊号、1952年)

## 1章. 再び都市に焦点を

→広域計画や大都市分散ではなく一つの都市を対象とした計画技術を扱う

## 2章. 都市の目的を定めることについて

→都市計画と都市政策との峻別

## 3章. 都市計画技術について

→計画技術と構築技術の峻別

## 4章. 都市計画理論と都市設計について

→都市計画理論と都市設計との峻別

## 5章. 都市の調査について

## 6章. 都市計画技術からみた都市の分析構成方法

## 7章. 都市計画の実現方法について

### 都市計画の領域をあえて限定 (→都市計画学会初代学術担当理事、東京大学都市工学科創設)

「都市計画の分野においては計画技術のよりどころをもっとしっかりしなくてはならないと常に感じているから」。ただし、「都市計画理論を単なる手段としての技術学に止めておく意図をもつものではない。都市計画理論の発達によって都市の目的設定や価値創造の仕事がより理論的に導かれることを常に切望している」

・石田の都市計画論は「計画技術（制度）」の発展のみならず、「都市の目的設定や価値創造」を視野に入れていたかどうか。

・石田は晩年、「日英両国語高山英華論」執筆を構想していた。その初期原稿にIshida(2000)があるが、高山の都市計画論（あるいは都市計画学の構想）は捉えられていない。

・石田は日本で最も評価されている（されるべき）都市計画学者であるが（日本建築学会の大賞受賞）、だからこそ、石田の業績、都市計画論には（高山が仕掛けた）日本の都市計画学、日本の都市計画の限定性（限界）が見えるのではないか。

## 2 都市計画史の3人のパイオニアと石田頼房の都市計画史

- ・日本における都市計画史研究は（欧米における都市計画史研究の勃興と共振しながら）1970年代後半に組織的に始まった。
- ・1980年代終わりから1990年初めにかけての書籍ラッシュ（その前に博士論文ラッシュ）までを第一世代の都市計画史研究と考えられる。
- ・第一世代には3人のパイオニアがいる。それぞれ異なるアプローチを有している。

	石田 頼房	渡辺 俊一	越澤 明
経歴	1932年生まれ	1938年生まれ	1952年生まれ
主な都市計画史関係の著作	『日本近代都市計画の百年』（1987） 『日本近代都市計画史研究』（1987） 『未完の東京計画』（1992）※ 『森鷗外の都市論とその時代』（1999） 『Rebuilding Urban Japan After 1945』（2003）※ 『日本近現代都市計画の展開』（2004） 『展望と計画のための都市農村計画史研究』（2004）	『アメリカ都市計画とコミュニティ理念』（1977） 『比較都市計画序説：イギリス・アメリカの土地利用規制』（1985） 『都市計画パイオニアの歩み』（1986）※ 『「都市計画」の誕生』（1993） 『都市計画の概念と機能』（2001）※	『満州国の首都計画』（1988） 『哈爾濱の都市計画』（1989） 『東京の都市計画』（1991） 『東京都市計画物語』（1991） 『我が国における都市計画の理論と実践』（2000） ※ 『日本都市計画学会五十年史』（2001）※ 『都市をつくった巨匠たち』（2004）※ 『復興計画』（2005） 『後藤新平』（2011） 『大災害と復旧・復興計画』（2012） 『東京都市計画の遺産』（2014）
都市計画史の方法論	通史的展望アプローチ	本質探求アプローチ	空間遺産アプローチ
主対象	計画制度	計画概念	計画事業
方法・手法	通史 年代区分 概念としてのマルチレイヤー	発生論（原点） 用語と言語分析 構造的な理解	オーラルヒストリー プラン分析 遺産評価
国際的視野	交流・伝播（欧米→日本） +（計画風土）	比較都市計画 World History of Planning	交流・伝播（日本→外地）
人物論	高山英華	池田宏	後藤新平
主な受賞	1982 都市計画学会論文賞 1991 建築学会論文賞 2004 建築学会大賞	1977 都市計画学会論文賞 1995 土木学会出版文化賞 1995 建築学会論文賞 2003 都市計画学会国際交流賞	1982 都市計画学会論文奨励賞 1990 土木学会賞 著作賞 1991 都市計画学会石川賞

## 2 都市計画史の3人のパイオニアと石田頼房の都市計画史

### ● 3つのアプローチと主対象

石田：通史的展望アプローチ・・・都市計画制度

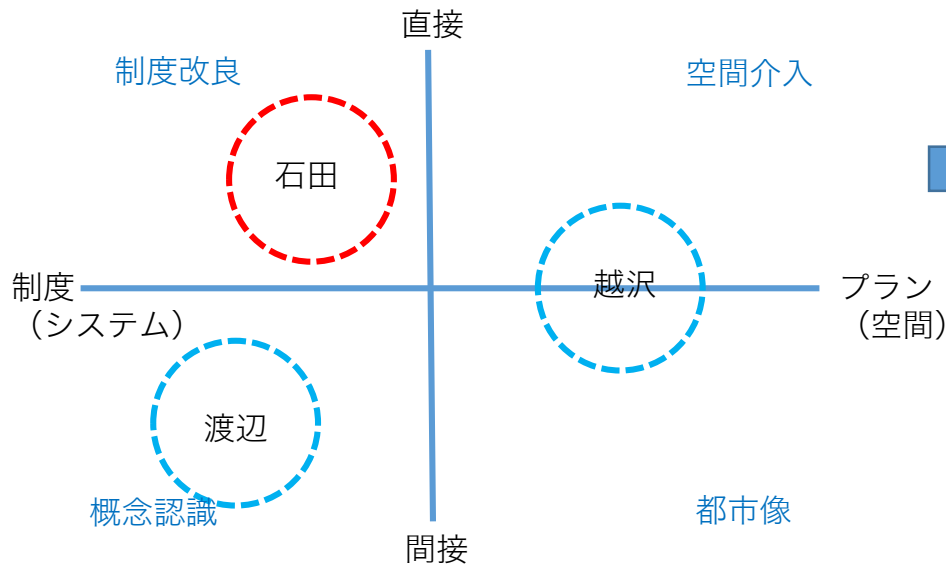
「都市計画制度はどこから来て、どこへ向かって発展していくのか？」

渡辺：本質探求アプローチ・・・都市計画技術

「社会技術としての都市計画とは本質的には一体何なのか？」

越沢：空間遺産アプローチ・・・都市計画事業

「都市計画は一体どのような空間を生み出してきたのか？」



・現在の都市計画史研究の殆どは、この3つのアプローチの何れかに分類できる。何れも基本的視座として継承されている。

・社会への貢献という観点では、対象軸(X)―実践軸(Y)の2軸の構図で整理できる。

・こうした構図の中で、石田の都市計画史は、基本的には「制度改良」の都市計画史であった。

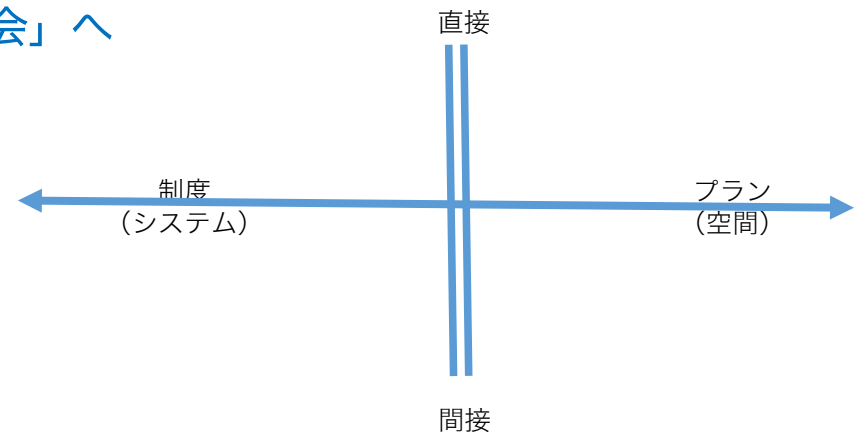
### 3 これからの都市計画史を考える

①石田都市計画史を受け継ぎ、乗り越えていくには、石田通史の相対化＝「通史」への挑戦が必要。石田通史を規定する歴史観（計画にまつわる法則性や公共性、そして都市そのものに関する考え方）を検証する。

②石田都市計画史、さらには渡辺都市計画史、越沢都市計画史とは異なる、都市計画史の（社会への貢献）可能性は？その萌芽が見出せる。

#### X軸「制度－プラン」から「規範－実空間・社会」へ

- ・「制度」＝「都市計画法制度」ではない。  
計画に関係する様々なシステムがある。  
→「社会規範」、「運動論」、  
「法と制度」（饗庭）、「ソフトロー」（小林）  
「計画風土」（石田）
- ・「プラン」ないしその実現／非実現に留まらない、  
「実空間・社会」の事態・実態・動態に入り込む。  
→「インフォーマル市街地」  
「都市組織(urban fabric, urban tissue)」  
※都市史研究との接続（融解？）



※現在の都市計画や都市に対する課題認識や実践が、都市計画史研究自身に投影される。

#### Y軸「専門家による実践」から「多様な主体による実践」へ

- ・「専門家のための都市計画史」を超える都市計画史  
→（仮）コミュニケーション・アプローチ  
参加型研究プロセス、都市計画遺産と社会実験、展示・アーカイブ・ミュージアム、物語など

### 3 これからの都市計画史を考える

